

平成 29 年度第 1 回仙台市学校給食運営審議会会議録

- 1 日 時 平成 29 年 6 月 29 日 (木)
午後 3 時 00 分開会
午後 4 時 30 分閉会
- 2 場 所 仙台市役所 2 階 第 3 委員会室
- 3 出席委員 岩崎奈緒子委員, 川村和久委員, 菊地崇良委員, 若狭久美子委員, 曾根由美子委員, 大泉由紀子委員, 熊谷和裕委員, 遠藤みち子委員, 柏木朋子委員, 千葉しのぶ委員, 向所千夏委員, 日黒由美子委員
- 4 事務局職員 大越教育長, 加藤副教育長, 佐藤次長, 木村総務企画部長, 清水参事兼健康教育課長, 金田給食運営係長, 渡辺給食施設係長, 鎌田主査, 結城主査, 千葉主査
横山太白学校給食センター所長, 瀬川荒巻学校給食センター所長,
中田高砂学校給食センター所長, 小野寺野村学校給食センター所長,
白鳥南吉成学校給食センター所長
- 5 説明員 清水参事兼健康教育課長, 金田給食運営係長

6 定足数の確認

議事に先立ち, 事務局より, 本日の出席者が 12 名であり, 仙台市学校給食運営審議会条例第 5 条第 2 項の規定による定足数を満たしているため, 本会議は成立している旨報告がなされた。

7 会長及び副会長の選出について

- 事務局 委員の改選に伴い, 仙台市学校給食運営審議会条例第 4 条第 1 項の規定に基づき, 会長及び副会長を選出していただく必要がある。どなたかご推薦をいただきたい。
- 委員 事務局として何か案は持っているか。
- 事務局 事務局としては, 前の会長と副会長が委員として再任されているので, 引き続き会長に熊谷委員, 副会長に遠藤委員がよろしいのではないかと考えている。
- 委員 (異議なし)
- 会長 それでは, これより議長を務めさせていただく。まず, 仙台市学校給食運営審議会実施要領第 6 条の規定で, 会議録の署名委員は, 会長と会長が指名する委員となっていることから, 若狭委員を指名する。

8 教育委員会からの諮問

平成 30 年度の適正な学校給食費について, 大越教育長から熊谷会長へ書面により諮問した。

9 議事

「平成 30 年度の学校給食費について」

- 会長 引き続き, 「平成 30 年度の学校給食費について」に移る。事務局より説明願いたい。
- 事務局 先ほど, 平成 30 年度の給食費について, 教育委員会より当審議会へ諮問がなされた。平成 25 年 4 月に 14 年ぶりに給食費改定を実施したが, 平成 26 年 4 月からは消費税率が 8% に引き上げられ, 再来年の平成 31 年 10 月にはさらなる消費税率引き上げも予定されている。こうした中, 経済情勢や食材価格の動向に注視しながら, 児童生徒のための望ましい給食提供の維持を第一に, 適切な給食費の水準について議論していく必要があると認識している。

今回の審議会では、議論の土台となる本市の学校給食を取り巻く状況を説明し、平成30年度の給食費についての実質的な審議は、次回以降の審議会で行っていただきたいと考えている。今回は、現状に対する質問や、次回の審議に向けての資料等について希望等があれば伺いたい。

会長 事務局の提案に意見等はあるか。

委員 (異議なし)

会長 それでは、来年度の学校給食費については、次回以降に審議することとする。

10 説明・報告事項

「仙台市学校給食の概要について」

事務局 資料6頁～19頁に基づき説明。

委員 平成31年度からの給食会計の公会計化にあたって、単独調理校と給食センター対象校の給食費も統一していく方向で考えているのか。

事務局 会計方式の違いがあるということであって、運営方式は変えないつもりである。

委員 以前にも指摘したが、業者による残留農薬自主検査について、その検査が本当に正しく行われているのか確認するため、第三者による検査が必要だと考えるがどうか。

事務局 残留農薬検査については、まず中央卸売市場で適切な品目等を選定し検査を行っており、給食の担当課としては、輸入果物について業者から証明書を提出させている。現状も同様の方式を続けている。

委員 給食従事者の検便について、赤痢菌や腸管出血性大腸菌等の保菌の有無を検査しているということだが、検査の範囲はどれくらいか。ノロウイルスに対して検討はされているか。家族が感染性胃腸炎になった場合の就業停止等の基準はどうなっているか。

事務局 検便検査については、大腸菌類ということで、かなりの種類を対象としており、0-157、サルモネラ菌、カンピロバクター等、主なものは網羅している。

また、家族がノロウイルスに罹患した場合についてであるが、給食従事者は、毎日作業前に、健康観察簿により本人と家族の健康状態をチェックしており、家族に症状が出ているときは勤務しないことになっている。また、本人が罹患した場合は、検査の結果、ノロウイルスが検出されなくなるまで出勤しないことになっている。

委員 給食における残食率の推移について、年々減量傾向にあるが、どのような努力が図られているのか。

事務局 本市が発行し各学校に配布している「食に関する指導の手引」には、具体的な指導方法として、児童生徒が食べ切ることができる適切な量を配分するよう注意すること等が記載されている。また、給食時間が短いため、時間内に食べ切ることができない子供もいるという課題については、健康教育課から学校に対し、給食時間の確保について呼びかけを行っている。

委員 残食については、学年・クラスによって違いが大きい。本校では給食時間を45分としているが、準備、片付けも給食時間に含んでいる。新1年生には、生活学習サポーターが各クラスに1名配置されており、給食も児童と一緒に食べている。保護者の立場から積極的に声掛けをしていただくことで、子供たちも安心して給食を食べることができている。洋食を好み、和食・魚が苦手な児童が多い。このことについて小学校で一番大切なのは担任からの声掛けと感じている。

委員 残食率の低下について、平成26年度から、その学校の実態に合わせて栄養管理を行っていることも挙げられる。児童生徒の身長体重から適切な栄養量を算出し、給食を提供していることが、残食量の低下にも繋がっているのではないかと思う。

委員 給食費について、事務局としては値上げしていく方向で考えているのか。例えば20円程度の値上げが高いのか安いのか判断しかねるが、自分の学校では給食費はPTA会費と一緒に自動引き落としになるので、20円程度の値上げならそれほど負担は感じない。それによって子供たちの食事が豊かになるのなら、給食は1日のうちで一番充実している食事かもしれない。働いている親の立場からはありがたい。今後の見通しとしては上げる方向で考えるべきか、そのまま据え置きとすべきか、気になっている。

事務局 給食費を改定すべきか、据え置くべきか、ということについては、まさに本審議会で議論いただく案件と考えているが、客観的な要因として、食材価格の推移、農作物の出来不出来といった、

- その時々々の経済状況を考える必要がある。また、再来年に消費税の改定も予定されており、それを見据えて議論が必要と考えている。そのために必要な資料は用意するが、事務局として、改定すべきかどうかといったことについては、現在のところ白紙である。
- 委員 給食費について、公費で負担している人件費のほかに、食材費分として自分たちで支払っているということを考えると、自分の子供にはきちんとした食材で食べさせたい。栄養バランスのとれた食事を給食が担うことを、保護者としては一番に期待している。先日学校に行ったときに、その日の給食のサンプルを見たが、学年は不明だが、量が少なく、食材の種類も少ないと感じた。児童一人ひとりによって食べる時間・量が違うので難しいが、給食費に関しては、平成31年度からの公会計化に合せたタイミングか、それを見据えて値上げしてもよいのではと考えている。委員になって、給食がこれほどに考えられて提供されているということを知ったが、一般の保護者は学校給食がどのように作られているか分からないと思うので、もっとアピールしてよいのではと考えている。
- 委員 本校PTAでは、毎年、文化祭で食品バザーを行っており、これまで弁当などを安く提供していたが、赤字にしてまで安く提供する意味があるか、という議論が先日あった。同じことは給食についても言えると思う。給食は子供たちの口に入るものなので、安全安心をとっても考えて作っているということを本審議会で知った。本校では、学年によっては給食試食会を行っており、保護者が給食を実際に食べる機会がある。他校に比べ、保護者が給食について知るきっかけが多い学校と感じている。そのように給食のありがたさを知っているからこそ、子供たちの安全安心を考えて給食費は考えていくべきと思う。この審議会を通して、未納者がいることについて知っていくと、値上げは慎重に考えるべきと思うが、消費税率改定を見据え、給食費の値上げは避けられないのではないかと考えている。
- 委員 食の知識や大切さを小中学校の給食を通して学んでいくことは、その先の食生活を身に付けていくうえで大事だと思う。本校は大規模校かつ給食センター対象校であるが、保護者が学校給食を知る機会はありませんし、PRもしていない。給食費の引落し予定のお知らせはするが、その中身について改めて伝えるということは出来ずにいる。給食費について、保護者が負担しているのは、食材費のみであるということは、小学校入学時のみではなく、毎年確認してもよいのではないか。31年度から自校調理校も公会計となり、未納のため財源が不足してデザートが付けられないという栄養士の悩みが少しは解消される見込みなのは素晴らしいが、同時に未納を無くしていくために、事情があり支払いができない家庭には、補填する制度があることを伝えていくことと、きちんと納めていただくことの働きかけを毎年行っていくことが大切だと思う。また残食について、中学校では食べる時間が短いため、特に女子は時間内に食べ切れない、たくさん食べることを控えてしまうという面もある。生徒たちの委員会活動で、残食を減らす取り組みを行っている学校もあると聞いているので、他校の良い取り組みを生徒会に投げかけるなど、情報を共有してはどうか。
- 委員 今年、小学校で小1生活学習サポーターを経験した。給食の時間に、配膳から片付けまで一緒に体験したが、1年生はこれまで見たことのないメニューだと殆ど口に入れない。声掛けすれば少しは食べるが、1年生は残食が多く、本当に勿体ないと感じた。また、クラス全体で残さずに食べると給食センターからシールが貰えるといったことや、クラスでは個人ごとに賞を貰えるということもあり、学年が上がるにつれて残さず食べるようになってくるようだ。中学校と小学校の献立表を見比べてみると、材料が同じでも中学生用のメニューにするなど、子供の年齢を考えて作っているのだと感じた。自宅でも様々なメニューを出していかないと、小さな子は手を付けないのかとも感じた。
- 委員 食材費だけではなく、人件費や施設整備費等も加えた価格の算定は教育委員会ではしているのか。
- 事務局 試算はしている。
- 委員 次回ぜひ教えてほしい。コスト意識をどう持ってもらうかが大切だ。飲食店では食材費が3割程度と言われるが、食材費の額だけで食事をすることができ、給食費がこの額で済むのは非常に大きなメリットがあるという説明をすれば、多少は未納率が減るのではないか。価格が多少上がってもやむを得ないと感じてもらうには、コスト意識を持ってもらうことが大切だと思う。

委員	以前にも示していただいたが、宮城県内の他市町村と他の政令市の給食費の額を、参考のため次回また示して欲しい。一概には言えないが、給食費の額がどの程度のものなのかを知りたい。
事務局	最新のを準備する。
委員	学校だけではなく、PTA に対し、未納の問題や給食について情報発信してはどうか。また、なぜ給食費を上げるかという原点に立ち戻ってみると、子供たちの健やかな育みということが一番重要だと思う。3食のうち1食分の必要な栄養価を学校給食によって補っていることで、本市の子供がどのように育っているのか、データがあれば欲しい。他の市の子供に比べて発育状況がよいといったことであれば、給食の影響が大きいと言えるのではないか。足らなければ質の向上を図る必要がある。3分の1の効果ではあるが、トータルでの発育の状況資料が欲しい。また、「食に関する指導の手引」について、その中に様々な工夫のアイデアが入っているのか。
事務局	児童生徒の体力、身長体重等のデータについて、健康実態調査を毎年行っているもので、データを示すことができる。次回準備する。また、「食に関する指導の手引」中の記載例であるが、子供が集中して食べる時間を設定する、残さないで食べている児童を褒める、声掛けを積極的にする等の事例を掲載している。

10 その他

事務局	次回の当審議会は、10月下旬から11月初旬頃の開催を考えている。その際、本日の意見等を踏まえた資料をご提示した上で、平成30年度の給食費について、改めて審議いただく予定である。
-----	--

以上

平成29年8月2日

署名委員 仙台市学校給食運営審議会委員

熊谷和樹

仙台市学校給食運営審議会委員

若狭久美子